建設業の担い手育成へ

県盛岡振興局土木部 安代中生が体験学習

県盛岡広域振興局土木部は、管内の中学生を対象とした建設業体験学習会を展開している。7日には、八幡平市立安代中学校の2年生20人が、滝沢市で進む道路改良工事の現場を訪問。生徒たちは現場見学や建設機械の操作体験を通し、建設業の役割や現場で使われている技術などについて理解を深めた。

同部では、建設業の担い手人材育成を目的に、18年度から中学生を対象とした体験型現場学習を開催。22年度は、合わせて9校を予定している。

安代中の生徒を対象にした建設業体験学習会

7日の学習会は、県建設業協会盛岡支部が協力。生徒は、㈱水清建設が施工を担当する「一般国道282号一本木バイパス道路改良（その2）工事」の現場を訪れた。

同工事の施工延長は951㍍で、主な工事内容は植生工3万3930平方㍍、側溝工922㍍、路盤工591

9平方㍍。現場代理人を務める熊谷秀弥さんらが、施工の流れなどを説明した。

熊谷さんは、地面が低いため土を盛って高さを調整する作業を実施することや、道路には水が流れるように勾配がついていること、路体や路床、下層路盤、上層路盤などがあり、それぞれにどのような材料が使われるかなどを説明。「ICT施工を実施し、作業をより早く進められるような工夫をしている」と、現場で活用されている技術も紹介した。

バックホウの操作にチャレンジ

続いて、生徒はバックホウとローラーの操作を体験した。熊谷さんをはじめ、水清建設の社員6人が協力。同社社員の指導を受けながら、バックホウのアームやバケットを動かしたり旋回したりする動作や、前進・後進の操作などに挑戦。音や振動も体感した。

生徒からは「プロの操縦をもっと見たい」とのリクエストも。社員のスムーズで正確な操作に、目を輝かせた。

杉本海晟さんは「真ん中から側溝に水が流れるようにしていることなどを学び、細かい部分も考えながら道路が造られていると感じた。土木分野でもICTの技術が使われていることを知り興味を持った」と土木で活用されている技術に関心を深めた様子だった。

熊谷さんは「今回の体験を通して、少しでも建設業に興味を持ってもらえたら」と期待を寄せる。

同部土木企画グループの山本和彦主任は「建設業は男性のイメージが大きいかもしれないが、男女関係なく働くことができる。将来、進学や就職する時に、建設業が選択肢の一つになるとうれしい」と話している。

測量体験や現場見学

県盛岡広域振興局土木部 玉山中2年生が体験学習

県盛岡広域振興局土木部が主催する中学生向けの体験学習会が8日、盛岡市立玉山中学校（長畑滋彦校長）の2年生を対象に開かれた。生徒たちは建設現場の見学や測量機器の操作体験を通じて地元建設企業の技術力に触れ、建設業の仕事に対する関心を高めていた。

学習会には同校2年生4人が参加。グラウンドで催された測量体験では、北栄調査設計㈱の髙橋康介代表取締役社長らが講師を務め、なぜ測量が必要であるかを説明しながら、測量・設計・施工の流れなどを解説した。

10㍍の距離を予測し、実測した値との差を調べる体験では、予想と実際の距離の差が予想した以上に大きく、生徒たちは驚いた様子。ほかにもグラウンドに「玉山中」の文字を書くためにトータルステーションを用いて位置出しを行う作業や、ドローンの操作などにも挑戦し、生徒たちは最先端の測量技術の一端に触れていた。

生徒たちは同日、一般国道282号一本木バイパス道路改良（その2）工事の現場を見学。現場代理人を務める㈱水清建設の熊谷秀弥さんらが、道路の構造や施工の手順、ICT活用工事の内容などを説明した。生徒たちは、工事を進める上でコストと品質のバランスが重要であることなどを学んだ。

生徒たちは、20代で1億円以上の工事を担当するという建設業のスケールの大きさに驚きながら、現場で使っている機械の種類や仕事のやりがいなどについて質問。バックホウやローラーの試乗体験では、アームの上げ下げや旋回などに挑戦し、建設機械の力を体感していた。

山澤愛美さんは「建設業は身近な仕事で、より正確に工事をするためにICTを活用したり、ドローンを使って写真を撮影したりと、最先端の技術を使っていることも分かった。若い人も多く、働きやすい仕事だと思った」と、地元企業の最先端の取り組みへの興味を示していた。

同土木部では、県内建設業への若年者の入職促進に向けて、中学生を対象とした建設業職業体験学習を18年度から実施。21年度までに延べ21校、900人弱の生徒が参加している。実施に当たっては、県建設業協会盛岡支部（樋下光支部長）と、県測量設計業協会（吉田久夫会長）が協力している。土木部土木企画グループの山本和彦主任は「重機やドローンの操作などを通じて、動かす楽しみ、つくる楽しみを感じてもらい、生徒たちが建設業に興味を持つきっかけにしたい」と話している。

測量体験する生徒たち

ドローンの操作体験

出版物のお問い合わせは
☎019-623-8201
事業部まで